

半田中央病院 2025プラン

令和5年6月 策定

【半田中央病院の基本情報】

医療機関名：半田中央病院

開設主体：医療法人

所在地：愛知県半田市有脇町13-101

許可病床数：82床

（病床の種別）療養病床82床

（病床機能別）回復期82床

稼働病床数：82床

（病床の種別）療養病床82床

（病床機能別）回復期82床

診療科目：リハビリテーション科・脳神経外科・整形外科

職員数：217名（非常勤職員を含む延べ人数）

- ・ 医師 41名 ・ 看護職員 56名
- ・ 専門職 107名 ・ 事務職員 13名

【1. 現状と課題】

① 構想区域の現状

(人口の見通し)

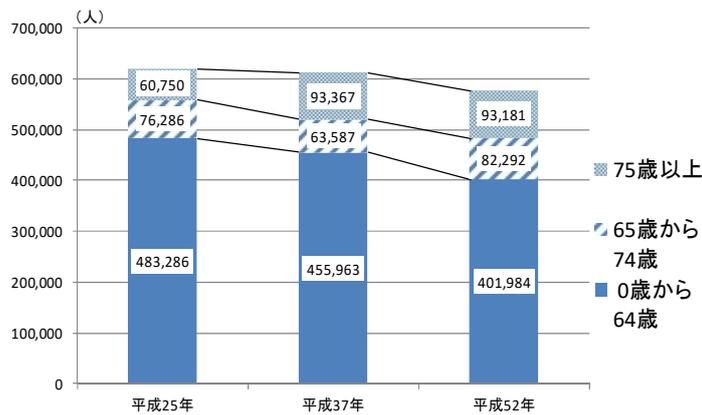
- 総人口は、県全体とほぼ同様の推移で減少していきます。65歳以上人口は増加していきますが、増加率は県全体より低くなっています。

<人口の推移>

※ () は平成25年を1とした場合の各年の指数

区分	総人口			65歳以上人口			75歳以上人口		
	平成25年	平成37年	平成52年	平成25年	平成37年	平成52年	平成25年	平成37年	平成52年
県	7,434,996 (1.00)	7,348,135 (0.99)	6,855,632 (0.92)	1,647,063 (1.00)	1,943,329 (1.18)	2,219,223 (1.35)	741,801 (1.00)	1,165,990 (1.57)	1,203,230 (1.62)
知多半島	620,322 (1.00)	612,917 (0.99)	577,457 (0.93)	137,036 (1.00)	156,954 (1.15)	175,473 (1.28)	60,750 (1.00)	93,367 (1.54)	93,181 (1.53)

<知多半島構想区域>



(医療資源等の状況)

- 人口10万対の病院の病床数は、県平均の70.9%と少なくなっており、特に療養病床数は、県平均の34.6%と非常に少なくなっています。また、人口10万対の医療施設従事者数については、医師数や看護師数が、県平均の7割弱と少なくなっています。
- DPC調査結果(DPC調査参加施設:3病院)によると、構想区域内において、ほぼ全ての主要診断群の入院及び救急搬送実績があり、緊急性の高い傷病(急性心筋梗塞・脳卒中・重篤な外的障害)及び高齢者の発生頻度が高い疾患(成人肺炎・大腿骨骨折)の入院実績がありますが、その入院実績の多くを半田市立半田病院が担っています。
- 消防庁データに基づく救急搬送所要時間については県平均とほぼ同様ですが、DPC調査データに基づく緊急性の高い傷病(急性心筋梗塞・再発性心筋梗塞、くも膜下出血・破裂脳動脈瘤、頭蓋・頭蓋内損傷)の入院治療を行っている施設までの移動時間について、南部の地域は所要時間が長くなっています。
- 高度な集中治療が行われる特定入院料の病床については、平成28年3月現在、構想区域内(4病院)において、救命救急入院料・特定集中治療室管理料(ICU)・ハイケアユニット入院医療管理料(HCU)の届出がされています。

○ 平成 25 年度(2013 年度)NDB データに基づく特定入院料の自域依存率は低い状況にあり、名古屋医療圏・尾張東部医療圏・西三河南部西医療圏へ患者が流出しています。

<医療資源等の状況>

区 分	愛知県①	知多半島②	②/①
病院数	325	19	—
人口10万対	4.4	3.1	70.5%
診療所数	5,259	375	—
有床診療所	408	29	—
人口10万対	5.5	4.7	85.5%
歯科診療所数	3,707	254	—
人口10万対	49.9	40.9	82.0%
病院病床数	67,579	4,000	—
人口10万対	908.9	644.8	70.9%
一般病床数	40,437	2,622	—
人口10万対	543.9	422.7	77.7%
療養病床数	13,806	398	—
人口10万対	185.7	64.2	34.6%
精神病床数	13,010	974	—
人口10万対	175.0	157.0	89.7%
有床診療所病床数	4,801	386	—
人口10万対	64.6	62.2	96.3%

区 分	愛知県①	知多半島②	②/①
医療施設従事医師数	14,712	801	—
人口10万対	197.9	129.1	65.2%
病床100床対	20.3	18.3	90.1%
医療施設従事歯科医師数	5,410	363	—
人口10万対	72.8	58.5	80.4%
薬局・医療施設従事薬剤師数	10,525	690	—
人口10万対	141.6	111.2	78.5%
病院従事看護師数	36,145	2,091	—
人口10万対	486.1	337.1	69.3%
病床100床対	49.9	47.7	95.6%
特定機能病院	4	0	—
救命救急センター数	22	1	—
面積(km ²)	5,169.83	391.73	—

(入院患者の受療動向)

- 入院患者の自域依存率は全般的に低くなっており、特に高度急性期が 50.0%と低くなっています。高度急性期、急性期、回復期については名古屋医療圏へ、慢性期については西三河南部西医療圏へ多くの患者が流出しています。また、名古屋医療圏からの若干の患者の流入がみられます。
- 疾患別の受療動向においても、がん、成人肺炎、大腿骨骨折、消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓系疾患の自域依存率が、他区域と比べて低い状況にあり、患者の多くが名古屋医療圏に流出しています。

<平成 25 年度の知多半島医療圏から他医療圏への流出入院患者の受療動向>

(単位：上段 人/日、下段：%)

患者住所地	医療機関所在地													合計	
	名古屋	海部	尾張中部	尾張東部	尾張西部	尾張北部	知多半島	西三河北部	西三河南部東	西三河南部西	東三河北部	東三河南部	県外		
知多半島医療圏	高度急性期	99	*	*	34	*	*	166	*	*	33	*	*	*	332
		29.8%	—	—	10.2%	—	—	50.0%	—	—	9.9%	—	—	—	100.0%
	急性期	213	*	*	77	*	*	643	*	*	75	*	*	*	1,008
		21.1%	—	—	7.6%	—	—	63.8%	—	—	7.4%	—	—	—	100.0%
	回復期	163	*	*	51	*	*	767	*	*	82	*	*	*	1,063
		15.3%	—	—	4.8%	—	—	72.2%	—	—	7.7%	—	—	—	100.0%
慢性期	47	*	*	*	0	14	374	16	*	92	0	*	*	543	
	8.7%	—	—	—	—	2.6%	68.9%	2.9%	—	16.9%	—	—	—	100.0%	

＜平成 25 年度の他医療圏から知多半島医療圏への流入入院患者の受療動向＞
 （単位：上段 人／日、下段：％）

医療機関所在地	患者住所地														
	名古屋	海部	尾張中部	尾張東部	尾張西部	尾張北部	知多半島	西三河北部	西三河南部東	西三河南部西	東三河北部	東三河南部	県外	合計	
知多半島医療圏	高度急性期	16	*	*	*	*	*	166	*	*	*	*	*	*	182
		8.8%	—	—	—	—	—	91.2%	—	—	—	—	—	—	100.0%
	急性期	16	*	*	*	*	*	643	*	*	*	*	*	*	659
		2.4%	—	—	—	—	—	97.6%	—	—	—	—	—	—	100.0%
	回復期	20	*	*	*	*	*	767	*	*	*	*	*	*	787
		2.5%	—	—	—	—	—	97.5%	—	—	—	—	—	—	100.0%
	慢性期	46	*	*	*	*	*	374	*	0	*	0	0	*	420
		11.0%	—	—	—	—	—	89.0%	—	—	—	—	—	—	100.0%

② 構想区域の課題

- 構想区域内の DPC 病院は 3 病院ありますが、他の区域と比べ入院実績が少ないことから、区域内に十分な急性期入院機能を有しているとは言い難い状況で、高度な集中治療が行われる特定入院料を届けている病床数も少ない状況です。公立西知多総合病院の開院により状況の改善は見込まれますが、構想区域内で治療困難な特殊症例の対応や緊急性の高い救急医療について、他の構想区域との適切な連携体制を構築していく必要があります。
- 疾患別の受療動向において、患者の多くが名古屋医療圏に流出していますが、成人肺炎や大腿骨骨折など回復期につなげることが多い疾患については、構想区域内で対応していく必要があります。
- 県内病院における医師不足の影響に関する調査結果（平成 27 年 6 月末時点）によると、診療制限をしている病院数は 5 病院あり、区域内病院数（19 病院）に対する割合が 26.3%と高くなっており、その状況を分析し、対応を検討する必要があります。
- 回復期機能の病床を確保する必要があります。

③ 自施設の現状

届出病床数：82床（療養病床82床）

- ・回復期リハビリテーション病棟 59床：平均在院日数70.0日 病床稼働率94.6%
- ・地域包括ケア病棟 23床：平均在院日数14.0日 病床稼働率61.3%

職員数：217名（非常勤職員を含む延べ人数）

- ・医師41名 看護職員56名、その他専門職107名、事務職員13名

リハビリテーションと在宅医療の二本柱で地域貢献。

令和元年の回復期病床整備事業にて承認を受け、病床を法人内（あべクリニック19床、西知多リハビリテーション病院3床を半田中央病院へ）で移動をし、令和2年2月より回復期リハビリテーション病棟57床、地域包括ケア病棟25床の計82床としました。

また、令和5年6月には、回復期リハビリテーション病棟59床、地域包括ケア病棟23床と変更をしました。

在宅療養支援病院として在宅医療センターを併設し、リハビリテーションと在宅医療の二本柱で地域医療の貢献に努めております。

④ 自施設の課題

令和2年に開設した地域包括ケア病棟は、新型コロナウイルスの感染が初めて確認された年と重なりました。その後、令和5年5月の5類感染症移行まで、患者や職員への新型コロナウイルスへの対応と、地域包括ケア病棟の看護職員の確保に苦慮しており、病床数25床に対して非常に低い稼働率となりました。

しかし、回復期リハビリテーション病棟は、急性期病院である半田市立半田病院と公立西知多総合病院からの回復期リハビリテーション病棟対象者の紹介が定期的であり、待機患者も増加しております。この状況を踏まえ、同一法人の西知多リハビリテーション病院へ半田中央病院の地域包括ケア病棟を2床移動し、構想区域の課題にもある名古屋医療圏へ患者が流出せず、知多半島医療圏内で対応できるよう、回復期リハビリテーション病棟対象者の待機を減らし、回復期としての機能を充足する必要があると考えます。そして、地域に根ざした病院を目指し地域住民の方が安心して暮らせるまちづくりをしたいと考えています。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

自施設の課題にも記載しましたが、知多半島医療圏内での回復期の対応が必要であり、特に、回復期リハビリテーション病棟入院の充足を図る必要があると考えます。

② 今後持つべき病床機能

引き続き回復期機能で運営し、地域の医療機関との連携体制を構築していきます。

③ その他見直すべき点

地域包括ケア病棟が25床（23床）から21床にすることで、看護職員の人員配置基準の見直しが可能になり、体制の充実を図ります。地域包括ケア病棟では、急性期の受け皿としてのポストアキュートのみならず、サブアキュート、在宅復帰支援の病棟としての機能で急性期病院や地域の病院やクリニックからの患者を受け入れていく体制を構築していきたいと考えます。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (令和4年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期			
回復期	82床		80床
慢性期			
非稼働病床			
(合計)	82床		80床

2床を同一法人の西知多リハビリテーション病院へ移動

<(病棟機能の変更がある場合) 具体的な方針及び整備計画>
病棟機能の変更はありません。

<年次スケジュール>

② 診療科の見直しについて
見直しの計画はしてありません。

④ その他の数値目標について
なし

【4. その他】
特にありません。